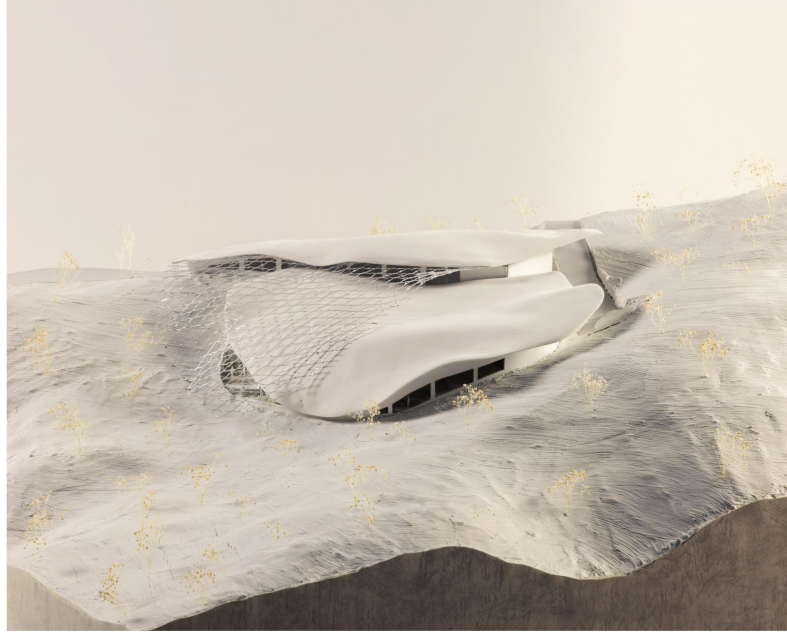
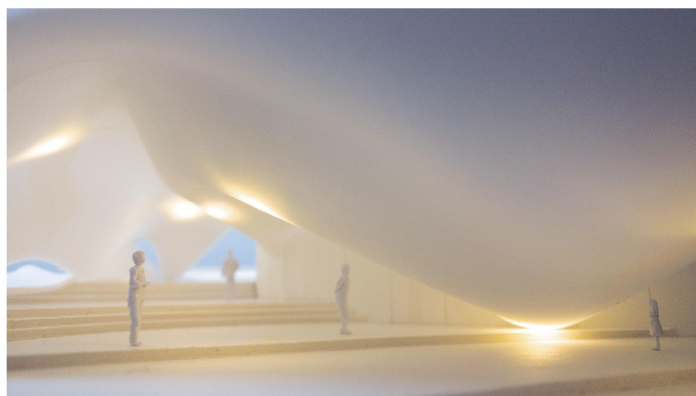
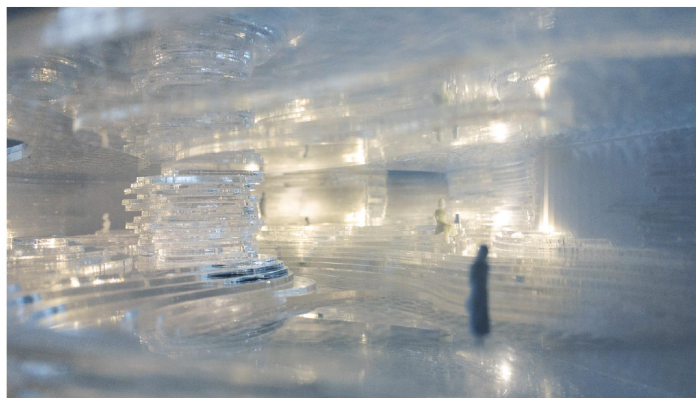


門脇 水萌
KADOWAKI Minamo



伊勢原ランドフォームミュージアム

スタイロフォーム、スチレンボード、石塑粘土、金属メッシュ、アクリル、ソフトボード



伊勢原ランドフォームミュージアム

この2年間、地形に興味を持ったことがきっかけで「建築と地面」というテーマを設定し研究を行った。普段私たちから見る地面は固く、動かないイメージがある。しかし地球規模の大きいスケールで見ると、地面は簡単にぐにゃりと曲がり、海の上で動き続け、水や宝石を含みキラキラとした瑞々しいイメージをも抱かせる。伊勢原ランドフォームミュージアムは相模川沿岸の地形的特徴である「埋没谷」をテーマとして、地面や地形の面白さやダイナミックさ、そして柔らかさを感じてもらうミュージアムだ。埋没谷とは元々谷であった場所が海面上昇により海中となり、土砂によって谷が埋まったあと海面が再び下がり陸となった場所のことである。私はこの埋没谷の、同じ場所なのに時代によって谷であったり海であったり、現在では陸として人々が生活しているという時間軸に面白さを感じミュージアムのテーマとした。中の展示はインスタレーション作品4つと説明パネルの展示1つで構成しており、あくまで教科書的な学びではなく地形や埋没谷に興味を持つための感覚的な展示である。屋内展示である1つ目から3つ目は隆起、海面、海中を表し、4つ目は屋根を利用した屋外展示で現在の伊勢原を見渡しながらか見る作品として平野を表しており、埋没谷の移り変わりを表現している。また全ての展示空間は山の斜面を感じる緩やかな階段となっており、作品を鑑賞しながら足で地形を感じる構成となっている。曲面が特徴の外観は、1年次に行った外観の研究をもとに地面が持つ柔らかさや流動性、瑞々しさを表現した。そこでは有名建築の外観から受ける印象を、浮遊感か密着感、重厚感か軽快感の2つの軸でスコアを付けて図にした後、形体や素材が持つ印象を整理した。本作品では柔らかさや流動性、瑞々しさを表現するために、密着感と軽快感を目指し、白色・ガラス・薄い部材・地面にへばりつくような形状の4項目を取り入れた。